

今までの審議会が出された意見について

I 詞や曲のイメージ及び詞に取り入れたいフレーズについて	〈異なる意見〉
<p>1 詞や曲のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お風呂でも鼻歌で歌われるような歌 ○覚え易くスムーズに歌える歌 ○できるだけシンプルな24小節ぐらいの長さの曲で比較的短めな歌詞 ○区歌を聞いて中野で暮らしたくなるようなお洒落な歌 ○オーケストラや吹奏楽で演奏してみたいようなきれいな曲 ○学校などの行事や儀式で歌うにふさわしい誰もが歌える歌 ○時代に拘らず普遍的でシンプルなきれいな曲 ○皆が自発的に歌いたくなるような歌 ○住みやすいまちという中野のイメージ ○訪れたいまちという中野のイメージ ○ショッピングやカルチャーが感じられる歌 <p>2 歌詞に取り入れたいフレーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○英語など国際感覚に富んだインパクトのあるフレーズ ○子どもたちが歌いやすく、平易だけれども深みがあり広がりを感じられるフレーズ ○中野区歌と言えばこの歌詞といったような心に残るフレーズ ○1番に地域のこと、2番に自然、3番に人やまちを表すフレーズを入れて、1～3番の最後は同じフレーズを並べる。 ○美しい言葉のフレーズ ○四季の森公園や大学の進出に伴う学園都市といった、新しい中野のイメージを歌詞に取り入れる。 ○区内の主な地名をすべて入れる。(歌が長くなるかもしれないが各地域でわがまちの歌ということで、歌い継がれるのではないか。) ○歌詞の特定の部分をそれぞれの地域の名前や学校名などいろいろに変えられるようにする。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の1番、2番、3番のテーマを過去、現在、未来といったようなテーマを分けて作詞する。 ○1番を子どもたちに合った歌詞に、2番を大人に合った歌詞にするといったように分けて作詞する。 	<p>○地名はその近辺に住んでいる人にとっては馴染みがあるかもしれないが、離れた場所に住んでいる人には親近感がわからない。(中野を代表する地名がない。)</p> <p>○新しくできて区民に定着していない地名を歌詞に入れるのは、未来までその地名が残っているか不安</p> <p>○いろいろ変わるのではなく、シンプルでオリジナリティーのある覚えやすい歌詞</p> <p>○地名ではなく区花や区の木などを入れて地域全体で歌える歌にすべき。</p>

○江戸時代からの中野の歴史的なエピソードを歌詞に入れる。

Ⅱ 区歌の作成を依頼するに相応しい人物像について

1 中野に縁のある人物であるべきかについて

○中野に縁がある人に拘ると人選が限られるので拘る必要はない。

○例え中野に縁がなくても中野に来たことがあり、中野のことを知っている人が適当である。

2 区歌の作成を依頼する方法（作詞者、作曲者を別にすべきか、どのような分野の人に依頼するかなど）

○音楽プロデューサーに一括して依頼する方法もある。

○作詞・作曲、歌手を別々にする。（それぞれにターゲットとなる年代があり、広い世代の興味を引くことができる。）

○作詞・作曲をコンビで行っている人たちに依頼する。（相互に通じるものがあってより良い作品を作ることができるのではないか。）

Ⅲ 幅広い区民に親しまれ、長く歌い継がれるための方策について

<第1回審議会で出された意見から>

○区歌の作成段階から中野区が区歌を作ろうとしていることをPRし、区民の興味を引くようにして、区歌ができた時に歌ってみようという気分を盛り上げておく。

○区歌が完成した後は、可能な限り商店街で流すことや駅の発車の合図に使ってもらうなど、区民が耳にする状況を作る。

○歴史に拘ると歌が古臭くなる恐れがある。

○中野に縁のある人物の方が中野に対する思いが入り、温かい作品を作ってくれる。（そのような人に作ってもらうことにより、区民に親しまれ、愛される歌になり結果的に中野を対的にPRしアピールすることに繋がるのではないか。）